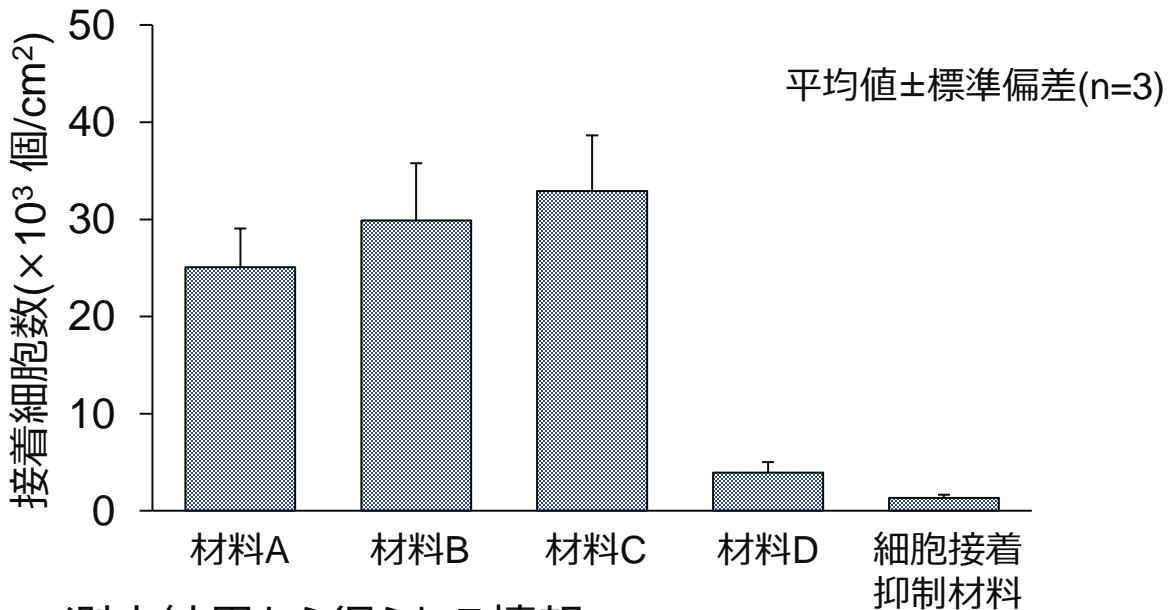


1. 測定条件

高分子培養基板上にヒト肝がん細胞株(HepG2)を 5×10^4 個/cm²の密度で播種し、3時間血清培地中で培養した。培養後、PBSで2回洗浄することで非接着細胞を除去し、固定後、クリスタルバイオレット染色により接着細胞を可視化した。その後、顕微鏡観察下で接着細胞数を計測した。

2. 測定結果



3. 測定結果から得られる情報

材料A、B、C上では陰性対照である細胞接着抑制材料と比較して有意に接着細胞数が多いことから、材料A、B、Cは細胞接着性を有することが明らかとなった。一方で材料D上に接着した細胞数は陰性対照と同程度であることから、材料Dは細胞接着性を有しないことがわかった。

また、通常の接着性評価の他、阻害剤等を用いた接着機構の解析も承っています。

4. 試験料

お問い合わせください。

※あくまで参考価格です。試験内容によって料金は変わりますことご了承下さい。
ご不明な点等ありましたら[お問い合わせ](#)ください。